

## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

ボランティア活動とは、自ら進んで地域社会や公共の福祉のために、自己の利益を求めずに技能や労力、時間を提供する活動であり、ひいては社会の発展を促すことを目指す活動です。

### ボランティア活動の4原則

#### 自発性

人から強制されたり、義務として行ったりするのではなく、個人の自発的な意志で行う活動です。

#### 公益性

特定の人たちに対してではなく、誰もが生き生きと豊かに暮らしていける社会づくりに役立つことを目的とした活動です。

#### 無償性

経済的な報酬を含め、基本的にはあらゆる対価を求めない活動です。ただし、場合によっては必要最低限の経費が支払われる場合もあります。

#### 先駆性

今、社会で何が必要とされているのかを常に考えながら、さまざまな視点から内容を見直したり、新しい取組を見いだしたりする活動です。



## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 学校支援 ボランティア とは

子どもたちの教育のために役に立ちたいという熱い思いをもって、学習活動や環境整備の活動を支援するボランティア活動です。

### 留意点は

- ①「無理は禁物です」  
できる人が、できるときに、できることを支援していきます。
- ②「子どもや学校の力になりたいと思ったときがチャンスです」  
他人から強制されるものではありません。自発的な意志に基づいて行われます。
- ③「子どもをはぐくむにあたって、ルールがあります」  
子どもや先生と一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動です。守秘義務など子どもたちを守るためのルールを遵守することが必要です。また、子どもの手本となるような倫理に基づいた行動が求められます。
- ④「ぜひ、みなさんのこれまでの経験を子供たちに伝えてください」  
ボランティア自身の経験や専門性を生かす活動です。
- ⑤「地域と学校、住民と子ども、住民同士が分かり合えます」  
地域コミュニティを活性化する方法の一つです。

子どもたちにとっても大変励みになっています。（保護者）

地域の方々やお父さん・お母さんたちと話ができるし、一緒に学べるから楽しいです。（児童）

普段の子どもたちの様子がわかるし、学校が身近に感じられるようになりました。（ボランティア）



## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### どんなことができますか？

#### ゲストティーチャー型

学習支援を目的に、児童生徒の学習活動を直接指導するタイプです。授業の一部で講話や技術指導を担当するので、ゲストティーチャーやワンポイント講師、地域講師、社会人講師などとも呼ばれています。

例えば、教科学習における異文化体験や企業勤務に関する講話、英会話指導、楽器演奏、伝統工芸やパソコンの指導、部活動における指導などを行うので、専門的な知識などが必要です。

#### アシスタント・巡視型

学習支援を目的としていますが、学習指導に中心的に関わるのではなく、教師等の指導を側面から援助するタイプです。

例えば、児童生徒との交流・遊び、交通整理などの通学安全指導、掃除の仕方の指導、公共施設見学などの校外学習時の引率補助が考えられます。放課後学習室の運営や部活動の指導補助もこれに該当します。また、学生サポート・スタッフは、この型の活動になります。

#### 施設メンテナンス型

学校環境整備などの支援のために、専門性を発揮しながら施設・設備の維持・管理を担うタイプです。

例えば、校舎や飼育小屋等の補修・塗装、壁紙の張り替え、玄関前の植木等の剪定やガーデニング、パソコン等の維持・管理等のボランティア活動があります。専門業者に発注するまでもないが、ある程度の専門的な知識や技術をもつ方による活動になります。

#### 環境サポーター型

環境支援を目的としていますが、専門的な知識や技術がなくとも、誰にでもできる活動を行うタイプと言えます。

例えば、図書室の蔵書管理や貸出業務、図書の管理、花壇整理や草取り、校舎の窓拭き、飼育水槽の管理、校内清掃、児童生徒の文集製本、家庭科室の包丁研ぎ、学校行事でのビデオや写真の撮影、職場体験活動の受け入れ等が考えられます。

## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 学校支援ボランティアのすすめ

学校は、授業の充実やより高い教育効果を求め、学校支援ボランティアを探しています。また、地域住民も、子どもたちのために何かをしようという思いをもつ人が増えています。

では、学校では、どんなボランティアを探しているのでしょうか？

既に学校支援地域本部があるところでは、地域コーディネーターが学校の要望に合わせて、地域で活動している団体や個人に直接働き掛けたり、口コミで募集情報を流したりしながら、学校と学校支援ボランティアをつないでいます。回覧板等で本部や学校からボランティア募集のおたよりが回ってくることもあります。

本部がある地域にお住まいの方は、その地域にいる地域コーディネーターや実際にボランティア活動に参加したことのある方に連絡をとってみましょう。

ドリル学習の採点を  
手伝おうかな？

野菜の作り方は教  
えることができる  
かな？

通学路のパトロール  
だったらできる。



パソコンの技術を  
生かしたい。

放課後学習室運営  
をやってみようか  
な？

仙台の歴史を子ど  
もに教えたい。

本の読みかせは  
大切だな。

花壇の整備はでき  
そうだな。

## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 学校支援ボランティアの約束ごと

よりよいボランティア活動にしていくために、次のことに注意して活動しましょう。

#### 心がけましょう

- ◇ 「子どものために、社会のために活動する」という気持ちを大切にしましょう。
- ◇ 子どもには、分かりやすく、ていねいな言葉づかいで接しましょう。
- ◇ 自信をもって大きな声で話しましょう。
- ◇ 子どもの良いところを見つけて、積極的にほめてあげましょう。
- ◇ 子どもの様子をよく見て、公平・公正な態度で接しましょう。
- ◇ 分からないことはそのままにしないで、必ず先生や指導者に相談しましょう。

#### 気をつけましょう

- ◇ 子どもの安全を第一に考えて活動しましょう。
- ◇ 事故や災害時の連絡方法や指示・命令の手順を確認しておきましょう。
- ◇ 約束の時間を守り、遅れる場合は必ず電話等で連絡をしましょう。
- ◇ 学校の教育目標や方針などをよく理解して活動しましょう。
- ◇ 活動についての報告・連絡・相談はボランティア活動においても基本であることを認識しましょう。

#### 守ってください！

△ 苦痛を与える暴言や体罰は絶対にしない！

△ 個人情報や、活動の中で知り得た子どもの秘密は、たとえ家族や仲の良い友人であっても絶対に外部にもらさない！

△ 先生に対する批判や批評を子どもの前では絶対に言わない！

△ 思想的に中立の立場で！営利目的の活動はしない！



## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 今の子どもたちって、どんな様子なの？

子どもにより個人差はありますが、それぞれの学年段階で、その様子は違います。今の子どもたちの様子を知っておくと、活動するときにあわてることも少なくなります。

#### 小学校低学年

- ・元気で活動的で、男女の区別なく仲良く遊べます。
- ・静かになるまでに時間がかかります。
- ・無関係に思える質問でコミュニケーションをとろうとします。
- ・準備や作業、後片付けをするのに時間がかかります。



#### 小学校中学年

- ・活発に活動し、それぞれの個性を発揮する時期です。
- ・仲間意識が芽生え、学級やグループなどの組織的な活動にも意欲的に取り組みます。
- ・他の人の行動に対して批判的になってしまう子どももいて、一見、行動が乱暴に見えることもあります。
- ・体験活動などにも主体的に参加するようになります。

#### 小学校高学年

- ・落ち着いて人の話を聞き、自分の興味・関心のあることについて、積極的に質問をします。
- ・男女の体や心に変化が現れ、お互いを意識し始めます。
- ・説明を聞き、活動の内容をくわしく理解することができます。
- ・少し難しいことにチャレンジしようとしています。



#### 中学生

- ・大人になりたがっている子どももいれば、そうでない子どもももいて様々です。
- ・見た目は大人ですが、自分の中で大人の気持ちと子どもの気持ちにとまどっている子どももいます。
- ・社会情勢に興味をもち、大人と議論することができます。
- ・仲間を思う気持ちが強くなる頃です。

### 配慮が必要な子が、学級に在籍しているときには

- ・先生からその子どもの様子をよく聞き、支援の方法や気を付けることがらをよく話し合っておきましょう。
- ・支援するボランティア全員が子どもの特性や支援の在り方等について理解しましょう。

## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 活動前に知っておきたいこと

学校支援ボランティアとして活動する場合、ちょっとした心の準備で気持ち良く活動することができます。

### 学校にはねらいや計画があります。

学校には、「こんな子どもに育ててほしい」という願いを込めた学校教育目標があります。これは、地域や子どもの実態を踏まえ、学校ごとに決めています。学校支援ボランティアとして活動する前に確認しておきましょう。

### 学校は子どもの安全を守っています。

学校には「子どもの安全確保」という使命があり、学校関係者以外の突然の来校者・訪問者については、安全を確かめるようにしています。  
多くの学校では、来校者は氏名・所属・用件などを玄関などで記入し、名札をつけて校舎内に入ります。来校したときは、まず事務室や職員室、本部室などの活動拠点となる部屋に必ず立ち寄るようにしましょう。

### 学校の教員と話をする時間は限られます。

学校には決められた時間の流れ（日課）があり、いつでも教員と話ができるわけではありません。教員と直接話をしたい場合は、昼休みか放課後だと比較的時間をとることができます。ただ、放課後も会議や研修、部活動の指導などがあるため、思ったように時間がとれない場合もありますので、必ず事前に連絡をした上で訪問するようにしましょう。

### 連絡は電子メールやFAXを活用しましょう。

教員が職員室に在室できる時間は本当に限られています。電話で対応することが難しい場合もあるので、確実に連絡をとりたいときは電子メールやFAXを活用するのがよいでしょう。教員から折り返し返事をもらうことを考慮して、時間の余裕をもって連絡しましょう。

### 学校の都合で、活動がキャンセルになることもあります。

学校の授業や活動は、必ずしも計画どおりに進むとは限りません。子どもの実態や当日の天候、突発的な事情などにより、授業の進み方が前後することがあります。そのためボランティアとして活動する日が急にキャンセルとなることがありますので、心得ておきましょう。

### 活動を希望しているのに、声がかからないこともあります。

ボランティア登録を行っているところもあります。登録しても、学校のニーズによりボランティア活動を調整するため、自分の希望どおりの要請がない場合もあります。得意分野だけにこだわらずに、できることをできる範囲で支援していこうという気持ちが必要です。

## 学校支援ボランティアとして（地域の方々へのメッセージ）

### 活動終了後は・・・

### 活動の振り返り

活動終了後、先生方との話し合いをもち、活動を振り返ってみることは、次回のボランティア活動を充実させ、よりよい活動にするために、ぜひ必要なことです。また、そのことは、自分の意欲とやりがいをもっと高めることにつながっていきます。

活動内容や感想など、自分なりに記録を残しておきましょう。

### ボランティアの輪を広げよう

ボランティア活動は、一人だけで行うよりも、やはり仲間とともに行う方がよいと言われます。なぜなら、活動の悩み事があった場合に、仲間に相談することができ、お互いアドバイスし合うことなどができるからです。

また、自分が用事がある時に、学校からの依頼があっても、仲間に対応することができます。

最初は、一人で始めても、活動をとおして仲間をつくるよう心がけることが大切です。楽しく、継続的なボランティア活動を行うためにも、ボランティアの輪を広げ、仲間同士が積極的に交流の機会を設けましょう。

### 学校とのよい関係づくりから始めましょう！

子どもたちへの教育を学校だけに負わせるのではなく、学校と家庭・地域とが一体となって進めるものだという認識が定着してきました。しかし、「ボランティア活動を学校に申し出ても学校がなかなか動いてくれない」という声を聞くことがあります。

学校は、子どもたちの安全を第一に考えています。よく知らない人に、子どもの教育や施設整備を任せることに不安を感じることもあります。また、何か協力したいと言われても、学校では何を依頼すればよいかわからないこともあります。

そこで、ボランティア希望者や地域の方々は、まず、どのような活動ができるかを具体的に地域連携担当の先生や地域コーディネーターに相談することです。例えば、専門的な指導の場合には、先生が作成した活動案を事前にもらったり、協働で指導案を作成することもあるかもしれません。これまでの活動実績や資格・特技などを記録したものを学校に提出することも一つの方法です。

また、学校行事に参加するなど、イベントなどにおいて、学校に足を運び、学校の様子を見ることも大切です。授業公開日や運動会、学習発表会、地区別懇談会などに参加して、子どもの様子や雰囲気を感じてみてください。

そして、市民センターなどを基点に活動するサークルなどの団体単位で学校支援を申し出るのも一つの方法です。学校にとっては、個人よりもサークルなどの団体の方が支援活動を依頼しやすいからです。